



# BREITLING

## 1884



インフォ・ブライドリリング

# INFO BREITLING

VOL.35 2018



# THE JAPAN RACERS SQUAD

#SQUADONAMISSIION

ジャパン・レーサーズ・スクワッド

勝利の喜びも、うまくいかない難しさも、チームで取り組むからこそ、次のステップに向かうことができる——。  
 「それぞれの分野のトップで戦う3人がチームを組み、新しきに挑戦する」というブライトリングのスクワッドから  
 佐藤琢磨、室屋義秀、中上貴晶で構成される日本独自の「ジャパン・レーサーズ・スクワッド」が誕生した。  
 その腕にあるのは、日本のブライトリングファンのために誕生した「クロノマット JSP」だ。  
 世界で戦う情熱は、1000分の1秒を競い合ったその先にある「未来」にも向かっている。

# 中上貴晶 TAKAAKI NAKAGAMI

幾多の挫折を乗り越え  
努力で掴み取った  
最高峰クラスのシート

世界最高峰のオートバイレース、MotoGPで唯一人の日本人ライダーが中上貴晶選手だ。14歳で全日本選手権のGP125で全戦全勝。史上最年少のチャンピオンになって渡欧しMotoGPアカデミーで学びながらスペイン選手権に参戦と華々しいスタートを切ったが、その後世界GP125クラスで大

きな壁にぶつかる。結果が出ず、2年間でシートを失って日本に戻るようになったのだ。17歳の中上少年が受けた最初の試練だった。

「終わったと言われましたが、遠い上がる為に考えました。自分は甘かったし勝利に対しての貪欲さも足りませんでした」思いを新たに全日本600クラスで再スタートし、2011年にチャンピオン獲得。日本GPのMoto2クラスで代役参戦の声がかかった。結果は決勝前に転倒し不出場だったが走

りを見ていたマネージャーに認められ、世界GPのMoto2クラスで再びグランプリ復帰することができた。そして6年目、遂にGPでの優勝を果たす。

「応援してくれた人達やスタッフの喜ぶ顔を見た時「これだ」と思いました。多くの人の力や想いが重なって、初めて自分の力を発揮することができた。そのことをつくづく感じました。」

そして2018年から、LCRホンダ・イデミツからMotoGP

に参戦することになったのである。

最高峰クラスで戦うようになった中上は、もう一つ活動を開始した。日本GPで子供達を招待した。自分自身も小さい時、GPライダー達から感動をもらった。自分も一生の思い出を子供達に届けたいと考えたのである。夢を目指して走り続ける中上選手の純粋な想いは子供達にも届いたことだろう。そしてこの日の思い出が次の中上選手を誕生させることになるのかもしれない。



1. 2018年からLCRホンダ・イデミツに所属、RC213VでMotoGPクラスに参戦している。2. もてぎではハンドルに当てられてコースアウト。不本意な成績に終わったものの次のオーストラリアではポイントを獲得している。3. 日本GPでは子供達に夢を与えたいとパドックバスをプレゼント。ピット前で愛機RC213Vと全員で記念撮影。4. 史上最年少チャンピオンとなってスペインのMotoGPアカデミーのテストを受試。世界中から集まった数十名の中から選ばれた4人に残ることができた。

小さな頃から夢は何も変わっていません。  
日本人初のチャンピオンになることです。

## PROFILE

4歳の時にポケバイに乗り始め9歳からミニバイクで連戦連勝。14歳で全日本選手権GP125クラス全戦全勝で史上最年少チャンピオンという記録を打ち立てた。世界GPで一度シートを失い、再び戦ったライダーは中上が初めて。2019年もLCR Honda IDEMITSUからMotoGPクラスに参戦することが決定している。

文\_後藤武 撮影\_鎌田孝太郎